

組合員の声を市町へ

行政と一体となった取り組み求め要望書を提出



当JAは7月26日、沼津市・裾野市・長泉町・清水町の4市町の首長へ令和6年度の農業行政に対する要望書を提出しました。

要望書は、生産部会などの意見や生産者の声を取り上げた内容で、農業資材価格高騰による厳しい経営状況に対して農業機械やハウス新設費用助成を盛り込みました。鈴木正三会長は「農業の課題解決に向けて協力をお願いしたい」と訴えました。



頼重秀一沼津市長(左)へ要望書を手渡す鈴木会長

組合員の意思反映に向けて

令和5年度地区本部運営委員会代表者会議開く



当JAは8月28日、令和5年度第1回地区本部運営委員会代表者会議を沼津市で開きました。各地区本部運営委員会の会長・副会長、JA役職員が出席。会長・副会長の選任など3議案を審議しました。

会長には、村松孝規さん(富士地区)、副会長は飯田寿夫さん(伊豆の国地区)と川村政司さん(なんすん地区)を選任。同委員会では、組合員の皆さまの意思反映に向け、対応方針を協議していきます。



地区本部運営委員会代表者会議の様子

高品質生産に向け情報共有

かんきつ 東部地区柑橘委員会が生産対策会議開く



東部地区柑橘委員会は7月26日、生産対策会議を沼津市の西浦みかん営農経済センターで開き、生産者や高木力常務などJA役職員が出席しました。

同日は西浦地区のミカン園地を巡回し、栽培管理や着果状況を確認。対策会議では、高品質果実の生産に向けて情報を共有しました。同委員会は令和5年度柑橘栽培振興計画に基づき、ミカンのブランド品種への改植やレモン生産拡大に向けて計画を進めています。



統一ブランドの創造に向け構想を語る高木常務(右)

ワサビの魅力の世界に発信

米国の青果卸売会社がワサビ田視察



伊豆の国わさび委員会は海外でのワサビ需要の高まりを受け、国外に向けたワサビのPRや現地の情報収集に取り組んでいます。

7月20日には米国・カリフォルニア州の青果卸売会社「スペシャルティ・プロデュース」と福岡県の「丸進青果」の社員が伊豆市のワサビ田を視察。ワサビの収穫・調整作業体験や試食を行い、生産者やJA職員が栽培方法や伊豆のワサビの魅力を伝えました。



米国企業スタッフにワサビの魅力を伝える生産者・浅田利哉さん(右)



FUJIZU ふじ伊豆トピックス TOPICS



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1~17の目標」につながる取り組みを行っています。
各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです

関東生乳品質改善共励会で最優秀賞受賞

管内生乳生産者の生乳品質が評価



関東生乳販連主催の第15回関東生乳品質改善共励会が開催され、伊豆の国市の渡辺謹一さんが最優秀賞を受賞しました。同共励会は、9都県の生乳生産者の生乳品質を審査し、乳業者へ新鮮で良質な生乳の供給や品質改善意欲の高揚を図ることなどを目的に開催されています。

今回は1,807人(団体も含む)が審査され、最優秀賞10人、優秀賞10人、優良賞80人などが選ばれました。渡辺さんの生乳は、成分乳質・衛生乳質ともに優れ、最優秀賞第3位という素晴らしい成績を収めました。

管内ではその他、優良賞に2人と1団体が選ばれました。入賞者は次の皆さまです。



最優秀賞を受賞した渡辺さん

最優秀賞 渡辺 謹一(伊豆の国) 敬称略()かっこ内は地区名
優良賞 佐野牧場(富士宮)・古地 定雄(なんすん)・松下 善洋(富士宮)

富士・勝又さんが最優秀賞に輝く

第72回静岡県JA青年組織活動実績・JA青年の主張発表大会



最優秀賞を受賞した勝又さん(左)と他JA受賞者

第72回静岡県JA青年組織活動実績・JA青年の主張発表大会が7月27日、静岡市で開かれました。

当JAからは、JA青年の主張の部に松井達哉さん(伊豆太陽地区)、野本達彦さん(伊豆の国地区)、JA青年組織活動実績の部に勝又正登さん(富士地区)が出演。勝又さんは「Breakthrough『前進』」と題して、コロナ禍でもみんなで工夫して行った農産物の販売など、青年部の取り組みと思いを紹介し、見事最優秀賞を受賞しました。勝又さんは11月に富山県で開かれる東海北陸大会に県代表として出場します。

組合員宅へ野菜苗配布

ファーマーズ出荷会員加入促進に向けて



御殿場地区では、同地区管内の正組合員宅へ野菜苗を配布する「野菜づくり運動」を実施しています。播種から野菜苗の配布までを御殿場地区の職員が行い、今年も8月から正組合員宅3,688戸へ配布を行いました。

新たな野菜栽培に組合員自らが取り組むきっかけづくりやファーマーズ御殿場出荷会員の加入促進などを目的に、平成21年度から継続して行っています。



キャベツとブロッコリーの苗を5本ずつ配布

「するがの極」生産・販売拡大へ

ブランド米推進協議会で協議



当JAと沼津市・裾野市・長泉町・清水町の4市町などで構成するブランド米推進協議会は、8月3日に通常総会を開き、「するがの極」の生産を起点に稲作経営の安定や消費活動強化の方針を決定しました。

生産者の意欲と技術向上による品質の高位平準化を図るため生産者表彰制度を導入。消費対策の強化として「するがの極フェス」を開き、地域の飲食店などとコラボレーションしたイベントを行います。



ブランド米推進協議会で今後の対策を協議

新たな農業の担い手確保へ

都内就農相談イベントに出展



伊豆の国地区では指導農家や行政と連携し、新規就農者の受入態勢強化に取り組んでいます。

7月15日には新たな担い手の確保に向けて、都内開催の就農相談イベント「新・農業人フェア」にブースを出展。イチゴやミニトマトの指導農家やJA、市・県東部農林事務所らが参加し、来場した就農希望者に伊豆の国地区で就農する魅力や研修制度、サポート内容などを説明しました。



イチゴやミニトマトの指導農家らがイベントで就農相談

高機能バイオ炭を試験導入

持続可能な次世代農業を実現



三島函南地区は本年度、化学肥料の使用量削減や脱炭素を目指すカーボンプレジットの実現に向けて、農業ベンチャー企業「トーイング」が開発・販売する土壌改良資材の高機能バイオ炭「宙炭」を試験導入しています。

8月に利用を始めたセロリのほ場では、肥料の使用量を3割削減し、11月の収穫期まで生育状況を追跡調査して効果を検証していきます。



セロリのほ場で資材を散布する生産者やJA職員ら

高校生開発の堆肥を販売

ふじのみや資材館で販売開始 地元を元気に！



「富士宮高校会議所」の富士宮市内6校の高校生が、SDGsの一環で同市の魚・ニジマスの残渣と朝霧牛ふんを混ぜ合わせて開発した堆肥「マスマス元肥」を、「ふじのみや資材館」で販売を始めました。

より多くの人たちに持続可能な社会づくりへの同取り組みを周知したいと当JAに販売を依頼して実現。通常の堆肥に比べてリン酸やカリウム、アミノ酸が多く含まれ、野菜や花、果樹などに広く効果があるといえます。



「マスマス元肥」(左)を資材館店頭で紹介する高校生

富士市特産「富士梨」品評会開く

三浦光太郎さんが金賞



当JA富士地区本部と富士市は8月8日、特産「富士梨」の品評会を開きました。「幸水」17点が出品され、金賞1人・銀賞6人が表彰されました。

今年の梨は糖度が高い傾向で、出品物の最高糖度は15.9度でした。入賞者は次の皆さまです。

金賞	三浦 光太郎	敬称略
銀賞	高橋 康文 飯島 正道 遠藤 孝紀 宮崎 和洋 鈴木 雅人 渡邊 徳久	



金賞を受賞した三浦さん(右)

イチジク出来栄え良好！

あいら伊豆いちじく部会が目ぞろえ会



7月下旬からイチジクの出荷シーズンを迎え、あいら伊豆いちじく部会は8月9日に目ぞろえ会を開き、生産者ら10人が参加しました。

県内他産地の概況や出荷計画などの説明を受けた後、生産者が持ち寄ったイチジクをサンプルに、形状や色、大きさなどの出荷規格や出荷時の注意点などを確認しました。10月下旬ごろまで、直売所「いで湯っこ市場」で販売しています。



形状や大きさなどを確認する生産者ら

防除の省力化と品質向上に期待

赤色LED防虫灯を試験設置



東伊豆町花卉園芸組合のカーネーション生産者・田村丞さんは、害虫のアザミウマに忌避効果があるとされる赤色LED防虫灯「アグリインセクト」を本年度から試験設置しています。

田村さんは「昨年に比べて被害が減少しているように感じる」と話します。伊豆太陽地区ではイチゴ生産者も同防虫灯を設置予定で、他の作物でも導入を進めています。



防虫灯設置後の効果を説明する田村さん(右)